

2006年9月11日

報道関係各位

株式会社リクルート
立命館大学

リクルート、立命館大学との共同研究 「リアルマッシュアップ」の実証実験を 9月16日から『三条あかり景色』にて実施

株式会社リクルート(本社:東京都中央区、代表取締役社長 兼 CEO:柏木 斉、以下 リクルート)は、『京都三条あかり景色(*1)』にて、9月16日~9月18日までの期間中に、立命館大学(本校:京都府京都市、総長:長田豊臣)の西尾研究室(*2)とリクルートのAPI(*3)などを利用したユビキタス環境における情報配信サービスの実証実験をいたします。

『京都三条あかり景色』は公共空間において多数の映像を壁面に照射し、地域が一体となってあかりを演出・表現する、全国的にも例がない京都ならではの取り組みです。

今回はこのイベントに立命館大学情報理工学部情報システム学科西尾教授とのリアルマッシュアップに関する共同研究成果であるセンシング技術によるプッシュ型情報配信を実現した「Wonder Wall(街中広告ウォール)」を提供して参加いたします。本システムは通りかかった通行人と「一緒に歩く」広告を表示します。提示された情報への通行人の興味を認識し、それに関する詳細な情報をさらに表示し引き込んでいく、最先端のユビキタス研究成果を適用したシステムです。

■実証実験の概要

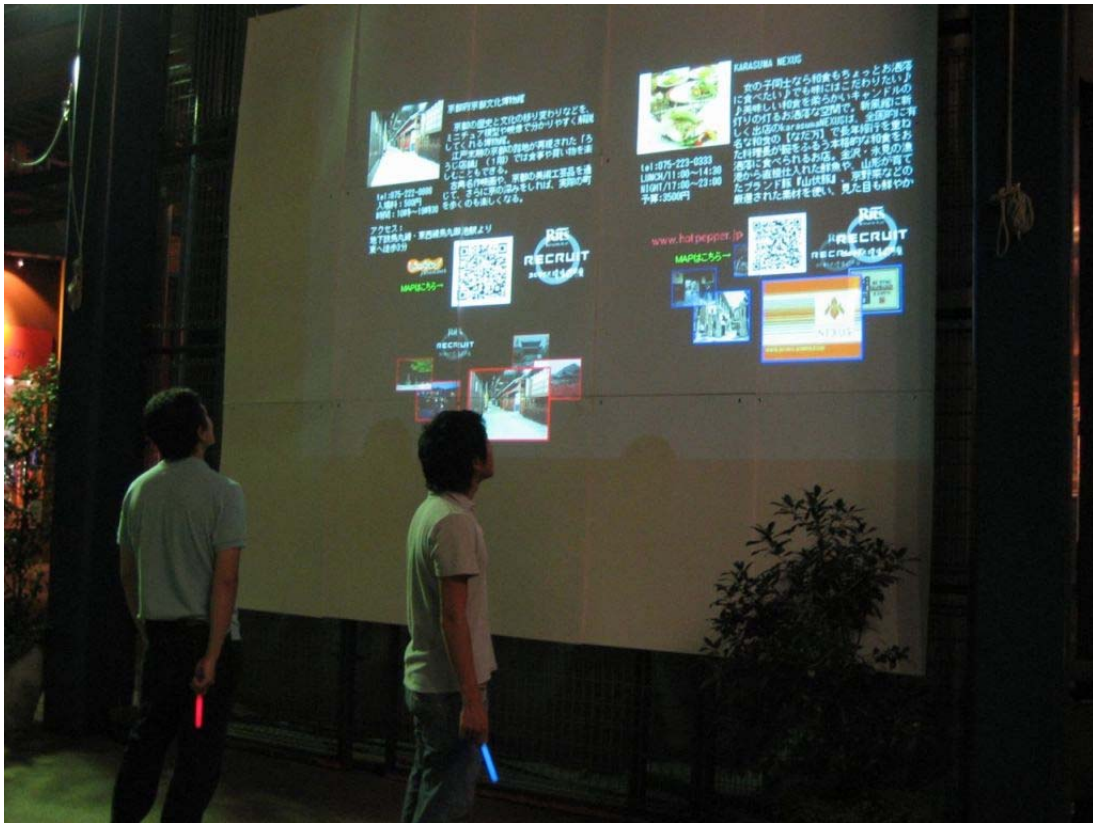
◎日時 : 2006年9月16日(土)~9月18日(月) 19:00~22:00

◎場所 : 烏丸三条上ル(新風館烏丸口)

◎内容

- ・ 『京都三条あかり景色』新風館に、「リアルマッシュアップ」を体験できるコーナーを期間中開設。
- ・ ユーザは、リクルートのコンテンツ情報を、「リアルマッシュアップ」として、ペンライトのような情報タグを利用して、体験することが可能。
- ・ コンテンツ情報をQRコードで携帯電話に取り込むことで、地図情報などを簡単に閲覧・保存することが可能。

■ 参考資料:『リアルマッシュアップ』 利用イメージ



三条あかり景色で配られるペンライトを持って壁の前を通りすぎると、ペンライトの光に反応してリクルートの広告が壁に表示され、京都の観光情報や周辺の飲食店の情報が提供されます。赤や青などの数種類の色のペンライトが配布され、ペンライトの色ごとに表示されるコンテンツやインターフェイスが切り替わります。

■ 実証実験の背景

リクルートと立命館大学 西尾研究室は、リクルートの国内旅行情報サイト「じゃらん」、ローカル検索サイト「ドコイク」などのリクルートのAPIサービスを利用したコンテンツを、インターネット以外の場(リアルの場合)において配信する「リアルマッシュアップ」について昨年より共同研究を行っています。西尾研究室は、「リアルマッシュアップ」の技術面でのサポート等に協力、リクルートは西尾研究室の「Wonder Wall(街中広告ウォール)」におけるコンテンツ提供をしております。

■ 「リアルマッシュアップ」の今後の展開について

- (1) リクルートの国内旅行情報サイト「じゃらん」、ローカル検索サイト「ドコイク」などのリクルートのAPIサービスを利用したさまざまなインターネットコンテンツを、インターネットから携帯へ、そしてリアルの場合へと発展させることを検討しております。
- (2) リクルートのリアルな場でのイベント活動(転職フェア・リクナビLIVEなどの人材領域でのイベント活動、住宅領域におけるモデルルーム見学、R25 のリアル店舗とのタイアップなど)で、

来場者向けにリアルタイムでAPIなどの情報を提供する手段として活用することを検討しております。

【本件に関する報道機関からのお問合せ先】

https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html

【参考資料】

(*1) 三条あかり景色2006

「三条あかり景色」は、楽洛まちづら会が主催する取組で、平成16年(2004)から毎年9月に開催し、今年で3回目の開催になります。まちなかの新しい夜の景観の提案、まちなかの楽しみ方を提案し、新しい京都ブランドを創造するチャレンジとして、沿道の住民や事業主、京都の企業等のサポートを得ながら実施しています。

「三条通を映像のビエンナーレに」「夜、お洒落に楽しく散策できる空間の演出」「人と店のネットワーク」という新しいコンセプトによるまちづくりを展開しており、昨年は期間中15万人の方が来訪するなど、徐々に「京都都心部の秋の風物詩」として定着しつつあると考えられます。

今年は、さらに量、質ともにクオリティを上げ、過去2回の経験と教訓を生かし、より主催者側のメッセージを伝えることができる取組としていく予定です。このような道路を中心とした公共空間における「多数の映像を壁面に複数直接照射する」という地域が一体となったあかりの演出、表現方法は、全国的にも例がない京都ならではの取組であると考えています。

- ◎ 開催期間:平成18年9月16日(土)・17日(日)・18日(祝)19:00～22:00
- ◎ 場 所:三条室町(京都医健専門学校)～三条京阪(KYOUEN)
- ◎ 主 催:楽洛まちづら会
- ◎ 共 催:どうする京都市民クラブ、財団法人京都市景観・まちづくりセンター
- ◎ 後 援:京都府、京都市、京都商工会議所、京都経済同友会、関西経済連合会、京都文化博物館、大学コンソーシアム京都、KBS京都、NHK京都放送局、朝日新聞京都総局、京都新聞社、毎日新聞京都支社、読売新聞京都総局 他
- ◎ 詳 細:<http://www.do-kyoto.jp/machi/akari/>

(*2)立命館大学 西尾研究室 // ユビキタス環境研究室

本研究室では、近年盛んに研究が行なわれているユビキタスコンピューティングを題材として、自律・分散・協調システムを構築することを目標とした研究を行ないます。

ユビキタスコンピューティングは、1980年代末に Xerox のパロアルト研究所(PARC)の Mark Weiser によって提唱されたもので、大量の計算機資源(デバイスとセンサ)が身の回りに遍在し、それらがネットワークによって接続している環境での新しいコンピューティングを研究するものです。

これまでのコンピューティングでは、ユーザは自分がどの計算機を利用しているかを意識していましたが、今後このように大量に計算機資源が遍在するようになると、ユーザが意識しないうちに何十もの計算機資源を同時に利用するようなアプリケーションが広まってくるといわれています。

本研究室では、このような環境を実現するための基盤技術を、自律性をもった個々のシステムが広く、そして数多く分散した環境で協調的に動作させることを目的として研究します。

教授:西尾 信彦

<http://www.ubi.cs.ritsumei.ac.jp/>

(* 3) リクルートのAPI

単にインターネットに接続して受動的に情報を得るだけの時代に終わりを告げ、ブログなどにも見られるようにネットワークに接続された各人が自ら主体的に情報の制作と発信を行う「Participation Age（参加の時代）」が到来しています。そうした時代の変化に伴って、アプリケーションの開発スタイルが大きく変化しようとしています。

まさに「参加の時代」に相応しく広く世の中の叡智を募り、Web2.0 に対応した新たな情報サービスの可能性を追求します。

【補足】

※リアルマッシュアップ(Real Mash up)とは

マッシュアップ(混ぜ合わせる)とは、本来ヒップホップという音楽のジャンルにおいて複数の曲を「混ぜ合わせて」新しい曲を作り上げることを意味しています。IT の世界では、さまざまなネットワーク上に存在するWebサービスを組み合わせて、新しいサービスを作り上げるという意味で広く使われています。

今回は、その概念をインターネット以外の場で行うことから、「リアルマッシュアップ」と読んでいきます。

※APIとは

「Application Program Interface」(アプリケーション プログラム インターフェイス)の略。ソフトウェアの開発者が最初から最後まで全ての機能を開発するのは困難かつ無駄が多いため、多くのソフトウェアが共通して利用する機能は、「API」として提供されている。個々の開発者は「API」の利用ルールに従って「API」を呼び出すだけで、API で提供されている部分については開発の手間をかけることなく、その機能を利用したソフトウェアを作成することができる。